

# ビッグデータを活用した健康づくり支援事業

全体目標 県民の健康寿命の延伸

- 達成目標
- ①県民の健康意識の向上
  - ②県民の生活習慣の改善
  - ③県民の健診受診率の向上
  - ④医療・介護費用の抑制

## 事業概要

兵庫県民の特定健診や医療情報のビッグデータを活用し、市区町別や圏域ごとの特性や疾病要因の分析、AIを用いた疾病予測モデルの開発に取り組む。分析結果については、県や市町において、データに基づく効果的な保健施策の立案を促進するほか、健康意識の向上や健康づくりへの行動変容など個人向けの啓発等への活用を目指す。

～2018                      2019                      2020                      2021                      2022                      2023

**①ひょうご健康づくり支援システムの開発・公表**  
 ・H25～H27のNDBデータを元に特定健診結果を活用した地域カルテの作成（地域間格差、健診結果と生活習慣の関連や統計評価を市区町別に可視化）  
 →地域の健康課題に基づいた施策展開や事業評価に活用  
 URL: <https://web.pref.hyogo.lg.jp/kf17/kenkodukurishienshisutemu.html>

**①ICTツールTableauを使用し、データの融通性を拡張**  
 URL: [https://public.tableau.com/app/profile/.37533015/viz/Data\\_16037923753680/SMR](https://public.tableau.com/app/profile/.37533015/viz/Data_16037923753680/SMR)

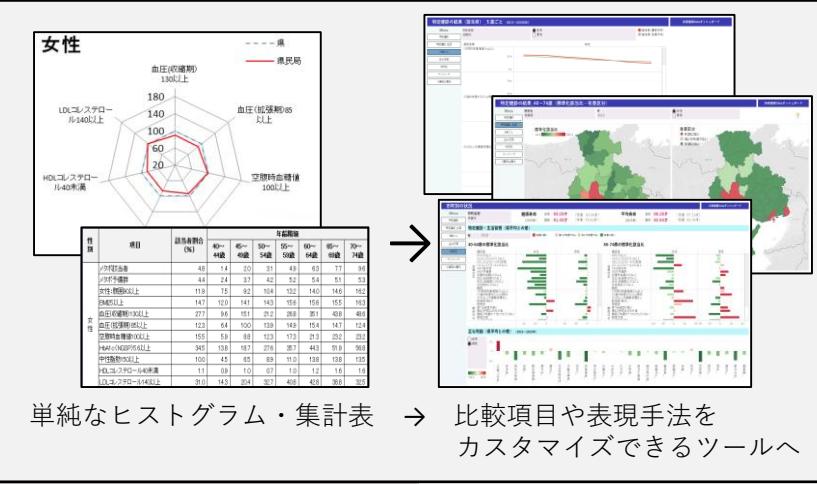
**①”システムの更新**  
 H28～H30のデータ取込

地域の健康課題に基づいた施策展開や事業評価に活用

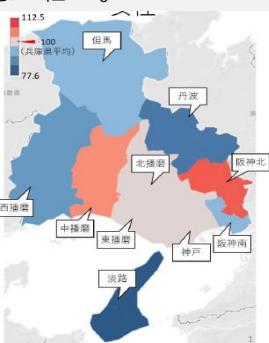
**⑥地域特性に応じた啓発媒体の作成@神大**  
 ・帳票分析、市町調査

**⑥地域特性に応じた啓発媒体の作成@神大**  
 ・媒体作成、使用研修

**②データ利活用人材育成研修会の開催**  
 ・対象：市町、健福職員  
 ・内容：仮説の設定、現状分析～政策検討までのプロセスを実践型式で学ぶ研修



**研究結果**  
 県平均と比較して、男性は北播磨、中播磨のSCRが有意に高く、淡路で有意に低い。女性では阪神北、中播磨のSCRが有意に高く、阪神南、西播磨、丹波、淡路で有意に低い。骨折発生比が高い圏域では、痩せが多く肥満が少なく、特に女性で顕著であった。骨折リスク低減に向けた重点課題として、①適正体重の維持、②乳製品や大豆製品の上手な摂取方法を組み込んだ栄養バランス食の普及、③運動習慣の定着や受動喫煙対策に取り組む。



(図1) 大腿骨骨折発生率SCR (女性)

**③NDBデータを活用した兵庫県における大腿骨骨折に関する実態調査**  
 要介護の主要原因である大腿骨骨折は、兵庫県は男女とも高い水準にある。発生状況を分析し、発生リスクと関係が深い食習慣や生活習慣との関連について調査を実施

**④NDBデータを活用した疾病発症予測モデルに関する研究**  
 ・H27～R2兵庫県民のレセプト情報、特定健診結果をもとに要介護の主な原因疾患「認知症」「脳卒中」「大腿骨骨折」の発症予測モデル開発のためのNDBデータ提供申請及び、事業者との開発計画の打合せを実施する。  
 ※令和3年12月末現在：データ提供待ち

**④”NDBデータを活用した疾病発症予測モデルに関する研究**  
 ・R3年度に作成した、データベース及び計画に基づき左記3疾病の発症予測モデルを開発する。  
 ・構築した各予測モデルを用いて、情報を資料化、市町宛てに公表

結果の公表

**⑥疾病予測に基づく健康づくり支援媒体の作成・活用**  
 行政-健康づくり施策への活用等  
 県民-健康意識の向上や生活習慣の改善

**⑤健康ビッグデータ利活用会議の開催**  
 ・構成：学識、保険者、市町等  
 ・検討課題：健康課題の要因分析・見える化、健康づくり施策の方向性、データの管理と活用方法、データを利活用できる人材育成等

**④”研究結果・予測モデルの活用方法の検討**